

第47回 PTAと市長との懇談会 実施報告

- 1 主催 府中市立小中学校PTA連合会(会長：)
- 2 事務局 府中市立小中学校PTA連合会(担当：)
- 3 協力 府中市市民協働推進部広聴相談課
- 4 日時 令和4年7月8日(金) 午後3時～午後5時
- 5 会場 教育センター 2階会議室
- 6 出席者 (1)府中市 10名
 - 府中市長 氏
 - 府中市教育長 氏
 - 府中市教育部長 氏
 - 府中市教育部次長兼教育総務課長 氏
 - 府中市教育部学校施設課長 氏
 - 府中市教育部学務保健課長 氏
 - 府中市教育部学務保健課給食センター副所長 氏
 - 府中市教育部指導室主幹 氏
 - 府中市教育部指導室統括指導主事 氏
 - 府中市教育部指導室統括指導主事 氏
- (2)府中市立小中学校校長会 1名
 - 府中市立小中学校校長会会長 氏
- (3)府中市立小中学校PTA 46名
 - 府中市立小中学校PTA連合会役員
 - ほか府中市立各小中学校PTA会長の皆さま
- (4)その他
 - 府中市立小中学校校長
 - 府中市職員(政策経営部秘書広報課・市民協働推進部広聴相談課)
- 7 会次第
 - (全体司会) PTA連合会庶務幹事 氏
 - (1)開会の言葉 PTA連合会副会長 氏
 - (2)挨拶 PTA連合会会長 氏

	市長	氏
	教育長	氏
	小中学校校長会会長	氏
(3)出席者紹介	P T A連合会副会長	氏
(4)懇談		
(コーディネーター)	浅間中学校P T A会長	氏
(アシスタント)	第二小学校P T A会長	氏
(5)閉会の言葉	P T A連合会副会長	氏

8 懇談要旨

テーマ…オリンピック・パラリンピック教育のレガシーについて
 子どもの学びを支える環境づくりについて
 フリートーク

(1) オリンピック・パラリンピック教育のレガシーについて

[市長]

昨年7月にオリンピックの開会式がありまして、そして8月下旬から9月上旬にかけてましてパラリンピックが行われました。この2つの大会は新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言中ということでございましたので、児童生徒を観戦に連れて行くことを非常に楽しみにしてたのですが、それを行うことができませんでした。子どもたちもきっとみんなでトップ選手の演技とか競技を見ることをとても楽しみにしていたと思いますけれども、これはできませんでした。

しかしながら、きっと子どもたちも、テレビやその他の情報を収集しながら、活躍した選手や、あるいはもっと力が出せるのに全ての力を出しきれなかった選手など、色々な選手の話を知ったり、姿を見たりして、そういった意味で学ぶことができていると思います。

ちょっと古い話になりますが、昭和39年に前の東京オリンピックが開催されたとき、私は3歳でした。したがって、前回のオリンピックの話をして私には全く記憶がなく、心の中に残るものというのはもちろん記憶になかったのですが、しかしながらその後、実はオリンピックで、例えば競歩の競技で折り返し点が緑町の、今のちょ

うどマクドナルドがある辺り、この辺で折り返したのだよという話を聞いたりします。それから市役所の先輩たちに聞くと、アベベ選手がマラソンで国立競技場から走ってきて、そして飛田給のちょうど今の味の素スタジアム辺りだと思うのですが、あの辺りで折り返しをするときに、市役所の仕事をみんなで見に行ったらいいですね。それがやっぱりいい思い出であり、またそのような話を聞いた私にとっても、この府中のまちというのがオリンピックを通して愛着の持てるまちであることも感じています。

したがって、昨年の東京2020オリンピック・パラリンピックは成功を収めて終わったのですが、今年からそのレガシーをしっかりとつないでいくということが私たちに課せられている課題だと思っていますし、そのことを利用してというところ少し語弊があるかもしれませんが、子どもたちにしっかりと向き合って話して、そして次の世代にまたつなげていきたいと本当に思っているところなので、何かアイデアであったり、もう少し工夫したらどうかとか、色々なご意見があればありがたいなと思っています。

[十小PTA]

市長にお伺いしたいのがレガシーという意味で、教育現場に具体的にどのように子どもに、オリンピックが行われたレガシーというものを、どういうふうに還元していきたいとか、そのような方向性をお伺いしてもよろしいでしょうか。

[市長]

まず、子どもたちにとって、オリンピック・パラリンピアン、こういう方々が憧れの存在だったり、あるいは自分の夢を形作る存在であると映るのではないかなと考えますと、トップアスリートのオリンピックやパラリンピアンに直接触れ合うことのできるような形というのが授業の形態としてあるのではないかなと思っています。そのような人たちのプレーを見ることも大事ですが、話を聞いて、そこから学ぶことがあると思います。

それからもう一つは、オリンピックは平和の祭典と言われています。平和ということを考えることも大事ですし、それからもう一つ、府中

市ではオーストリアとオーストラリアのホストタウンとなっていました。さらにその前年に行われたラグビーワールドカップではフランス、イングランド、南アフリカのキャンプ地としても交流をさせていただきました。したがって、国際理解を深めるという意味で、外国語に親しんで、あるいは学校給食でオーストリアやオーストラリアの国のメニューを提供するというも行いましたので、人に触れること、そしてまた世界の人々と親しみを持つということ、そのようなことが直接的なレガシーとして子どもたちが学ぶことができるのではないかと考えています。

[十小 P T A]

できれば、それを継続的に子どもたちが触れ合える機会とか、例えばオリンピックやパラリンピックの方々が、各小学校とか中学校に、もう少し講演に来ていただく機会が、終わった後でもあったりすると、子どもたちも触れ合える機会になるかと思えますし、府中市だと自転車のロードレースが大國魂神社を通ったりして、あれはかなり府中市以外の方もインパクトがあったかと思うのですけれども、ぜひそういったことも生かして、継続的にまた府中市としてロードレースを招致したり、諸外国の方とかを誘致できるような仕組みづくりをして、何かまた子どもたちに国際交流という場を、やっぱり当時あまりできなかったことを、以後続けていっていただきたいなという保護者としての思いがありますので、よろしくお願いします。

[市長]

ありがとうございます。特に、国際交流については1つの国ですけれども、オーストリアのウィーン市の1つの区と連携というか、盟約を結んでから今年ちょうど30周年になりますので、これから先も親しくお付き合いさせていただくことを考えておりますので、各小学校、中学校の子どもたちもそういったことに触れることができるように続けていきたいと思えます。

[四小 P T A]

オリンピック・パラリンピックといえば、金メダルを取りますと国歌が流れて、国旗が後ろをずっと揚がっていくような光景を見るのですけれども、私が小学生の頃、確か音楽の時間に国歌を習ったと思うのですが、最近ではどうやら、ないようなのですが、オリンピックもそうですけれども、最近ではサッカーワールドカップだったりすると日本の国歌が流れると思うのですけれども、今後、そのようなものを子どもたちに教えていくということはあるのでしょうか。

[市長]

国旗・国歌については、法制化されているので、小学校や中学校のカリキュラムの中に入っていると僕は思っていますが、どうでしょう。

[教育長]

少しお話を補足させていただきますと、学習指導要領の中で、音楽の授業で、国歌を歌唱する指導をすることになっています。ただ、今、PTA会長さんがおっしゃったのがごく最近であると、歌唱といったもの自体がかなりコロナの関係で制限をされておりまして、やっぱり歌わない、歌自体、ほかの歌も歌唱指導しないといったことがあって、そして卒業式とか入学式にもテープで流すという形になっていますので、その関係で、歌うタイミングがないといったことはあったのかもしませんが、教えることにはなっておりますので、そのところをご理解いただければありがたいなと思っています。

[三小PTA]

オリンピックのロードレースのコースをテレビ中継で拝見しまして、見慣れた街中や背景など、普段は自転車が通れない大國魂神社の中を通っているところを見て、とても楽しく思いましたし感動いたしました。私の子どもは三小の野球に入っているのですけれども、校庭が使えない中オリンピックが近づいてきたときに、運動を楽しみましょうといった趣旨の話が回ってきまして、校庭が使えないのに野球を楽しむこと、球場をどう野球チームで使い回していくのか、子どもたちは喜んで野球をしたのですけれども、親としてはちょっと複雑な気

持ちで、思いがあったので、その辺りをお伺いしたいなと思っております。

[市長]

コロナ禍によって校庭を、いずれにしても活動することを制限されていたということですね。コロナ対策本部というものを私は本部長で市役所の中に置き、部長級の職員が構成員になって全体の方向を決めていたのですが、そこで決定したことが教育委員会でもそれを改めて検討して、学校現場の教育活動の中で制限しなければいけないものを制限していったのだと思います。

当然、府中市だけでその本部会議で決めているのではなくて、国の方針や東京都の、特に都道府県の方針に従って学校、教育現場などは運用をしておりました。今となっては、色々な対応をすることによって感染を抑えられたのだと思えますが、やはり去年のオリンピック前となると、デルタ株が非常に感染力と猛威を振るって、今とは違ってかなり重症な方が多くいらっしゃいましたから、どうしても全体とすると、例えば部活動や運動の活動については、週何日という制限をしたり、校庭が使える日はどうしてもこの時間内ということを経ざるを得なかったということです。子どもたちには少し制限をかけてしまって申し訳なかったなと思っておりますけれども、そういったこともあってか、それぞれの学校で極めて大きいクラスターが発生するとか、それぞれの部活動で、例えば子どもが重症になるとか、そのようなことなかったと思っておりますので、これからしっかりと子どもたちが思い切り活動できるようにしたいなと思います。ただ、第三小学校は建替えになるので、そこはご了承ください。

(2) 子どもの学びを支える環境づくりについて

[コーディネーター]

実は、浅間中学校もそうなのですけれども、校舎が今すごく暑くて、コンクリートベタ打ちなので、最上階の教室が特に暑いということが結構あります。仮校舎といいますか、軽量鉄骨の校舎が新しくあるのですけれども、そちらのほうが涼しい。暑さ対策というのは、やはり断

熱材が昔のままだと、弱くなっているのか、結構暑いという話も聞きます。今後の取組や何か考えていることはありますか。

[市長]

学校施設の屋上については、色々な形態が考えられると思いますが、しかしながらこれからの学校というのは、できるだけ学校の屋上に空いている部分があれば、これは私の考えですが、太陽光発電ができるような施設を整えていくことが、ゼロ・カーボンの時代に向けては必要なのではないかなと思います。

確かに断熱材とか、そういった選択によって、最上階の教室の熱を少しでも下げることができるのかもしれないので、そこは技術的にどういうふうにできるのか、1つの課題として持って帰りたいなと思います。

ただ、このところ、先週ですか、非常に暑くて、10日近く猛暑日が続きました。この間、新型コロナウイルス対策と猛暑対策、両方兼ねるために窓を開けてエアコンをフル稼働ということをしてきました。しかしながら、さすがにエアコンは参ったということで、ブレーカーが落ちてしまう学校が結構続出してしまいました。改めて、やはり先ほどのコロナ対策の話ではないですが、これからは窓をそう開けなくても、開けたままでなくても、室温をしっかり下げて、そして定期的に換気をするという方向に持っていきたいと思っていますので、話が質問からそれてしまうかもしれませんが、先月の下旬非常に暑かった。このことがもう一度来るかどうか分かりませんが、猛暑対策はそのようにしていきたいと思います。

事務局に技術屋さんがいますので、断熱の話はできますか。

[学校施設課長]

現在、新しい学校づくりの中で、お話のありました、学校の断熱機能、こういったものは屋根材であるとか、あるいは窓についてもペアガラスといったものを新しく入れていこうと設計しておりますので、格段と変わってくるかと思います。また南側の窓については庇をつけるような形で、夏場の日差しがなかなか入らないような、そのような設計を進めておりますので、今日いただきましたようなご意見につい

でも持ち帰りまして、三小と六小を始めているところでございますので、そういったところに取り組んでいきたいと考えております。

また、先ほど市長から申しあげましたように、太陽光パネルを設置する場合、屋根の上に太陽光パネルを載せていきますので、それだけでもかなりの断熱効果が上がるかと思えます。そのような工夫をしてまいりたいと考えております。

[南町小 P T A]

府中市における子どもたちの自然体験学習の今後の展望につきまして、質問をさせていただきたいと思えます。

昨今の子どもたちにおける課題の1つに、自然体験学習がなかなか得られていないというのがあるかと思えます。これは文科省のサイトに載っていたのですが、自然体験学習を多くしている子どもは、そうでない子どもと比べまして、正義感、あるいは道徳心の向上が多くなされているということが、文科省のページに載っておりました。

明日の7月9日に府中市では、多摩川で水辺の楽校というイベントを行うことと思えますが、私どもの南町小学校でもこちらのイベントに実はコラボレーションさせていただいておまして、当日の午後に南町小学校の子どもたちを対象に、多摩川の自然体験学習を開催させていただくことになっております。

このような事業を今後も継続していきたいと我々も思っているのですが、つきましては、府中市における自然体験学習の今後の事業計画などについて、お聞かせいただきたいと思えます。

[市長]

自然体験というのは子どもたちにとって極めて重要なことだと思えます。教科書から学ぶこと、あるいは現代の子どもですからインターネットで色々な情報を集めて、自然や科学のことを知るということでもあると思えますが、今、例として出していただいた多摩川での水辺の楽校などは、場合によっては水の中に入って、ガサガサと探検をして、網でエビを取ったり、ちっちゃな小魚を取ったりしてそれを実際に見て、もちろん放してあげるのですけれども、そういった経験など

をすると、子どもたちにとっては大変心動かされるような体験、経験になると思いますので、自然体験学習は極めて重要だと思います。

各学校において、どのように体験を系統立てて計画しているか。それについては少し補足をしていただきます。ただ、どこの学校も皆、そのことについてはしっかりと着目をして、例えば遠足、それからセカンドスクール、そして6年生になれば修学旅行、中学生になるとまた違った形で職場体験なんていうのも出てきますし、必ずしも自然が相手ばかりではありませんけれども、実際に体験をすることについては重要なものとして捉えていると思っています。

[教育長]

補足という形でお話をさせていただきますと、やはり各学校、子どもたちにその学校の置かれた環境、身近な自然、植栽も違うことや、周りに畑がある学校もあるなど、色々あると思うのですけれども、そのようなところを生かしながら、それぞれの教育活動を学年に応じて行っております。ただ、自分の学校の周りだけではなかなかできないものについては、やはり学校行事ということで、校外学習だとか、または一番大きいのは宿泊行事だと思うのですけれども、宿泊の行事のときに思いっきり自然に親しむという形で、色々な体験を学校は用意して、子どもたちに知識だけのものではなく、実際に触ってみたり、肌で感じてみたりといったところを大切にしていける教育は、これからも大切にしていきたいですし、それは各学校の校長も同様の思いで教育課程を組んでくれていると思っています。

[白糸台小 P T A]

先ほどの太陽光パネル、私も個人的には屋上につけて、非常に良いことだなと思います。私も賛成です。ただ、1つ懸念されているのは、火事等のトラブルですね。温度が上がったときになかなか温度が下がらない。消火活動も難しいとオペレーションのエビデンスが出ているのですが、その辺りはどのような対応をお考えでしょうか。

[市長]

太陽光パネルを屋上に置いて、それによって学校のエネルギーの負荷を下げようというのは、考え方としてはご理解いただけると思うのですが、ただ、やはりこれ日進月歩で、どんどん精度のいいものができてきている実態があると思います。したがって新しく学校をつくる、あるいは今、学校の屋上に少し余地がある。必ずしも全部すぐにやろうとは思っていませんので、これは時代時代に合わせて整備をしていこうと思います。したがって、高熱が続くことによって発火をして、火事といった、あってはならない事故が起きたときの対応については十分に考えなければいけませんし、また、それは起こるかもしれないということで、日頃の防火対策というのを講じておいていただきたい。学校長を先頭に、日頃の安全確認、それから今、お話されたように、いざというときの行動計画についてはしっかり立てておいていただきたいと思います。

[白糸台小 P T A]

現在のオペレーションの対応、今の技術だとなかなか火は消せないという話を私は聞いたことがあります。例えば、発火してショートして火が出ました。その間、温まっているので、現状の技術だとなかなか温度が下がらない。その辺りがやはり技術等の改革で改善されるのかなと私も思っています。ありがとうございました。

[八小 P T A]

府中市での G I G A スクール構想について、現状どのようなペースで動いているのかを少しお話をお聞かせいただければと考えています。

恐らく、インフラの整備から 1 人 1 台のパソコンの配置や、その後のデジタル教材、最終的にはビッグデータの活用、教育データの収集というところまでお考えだと思うのですが、コロナの影響で遅れているというニュースを見ているので、府中市は今どのようなフェーズにあるのかというところを少しお聞かせいただけるとありがたいです。

[市長]

これも非常に日進月歩でありまして、私の方ではG I G Aスクール構想の話文科省から聞いたときに、まず、とにかく子どもたちにタブレットをしっかりと持たせよう。それから、その前に教室内などにおける学習環境を整えるために電子黒板等を早急に整備しようということで予算付けをして、整備をしまいいりました。

新型コロナウイルスの感染拡大で緊急事態宣言が発生されているときなど、タブレットを持って帰ってということを考えておりましたが、それでも学校に登校することを制限することがこれまでなかったので、今の時点では毎日子どもたちがタブレットを持って帰ることはしていませんが、もうすぐ子どもたちが毎日持って帰って、家庭に置いている機器類を使っての学習ということもできるようにしようと進めています。

ビッグデータやその他の教材については、私よりも教育委員会の方が今色々な材料があると思いますので、そのことについてお願いします。

[指導室主幹]

ビッグデータの活用ということでは、府中市という単位では今のところあまり考えはないのですけれども、国全体の流れとしても、コンピュータベースでテストを行うような考え方がありますので、それはすごく採点が簡単になるということでもありますけれども、国全体で学力の定着状況などを把握したり、また、転校を伴ったとしても、学習データが引き継がれたりという構想自体があります。現在は構想が示されているのみで、その具体的な取組は示されていませんが、府中市としてもそれに対応できるようなインフラの整備は考えていきたいと考えており、今も準備を進めているところになります。

また、電子教材については、府中市が緊急事態宣言で学校が臨時休校になった際に、「eライブラリアドバンス」というクラウドで利用できるデジタル教材を導入して、現在も引き続き利用しているところです。こちらは今、お子様が何年生であるかにかかわらず、小中学校9年間の全ての教科の各単元に遡って学習することができるツールになりますので、ぜひお子様の苦手な分野とかも自学自習していく中

で、ご家庭でも活用していただけるように、学校からもご案内させていただいていると思います。

それから、デジタル教材としてデジタル教科書の導入がありますが、教科書が紙であることが望ましいか、電子であることが望ましいかという議論もある中ではございますが、紙の良さ、デジタルの良さ、それぞれあると考えておりまして、その場合に応じて、活用できるよう取り組んでまいりたいと考えております。

先生用のデジタル教科書においては、現在市場に出ているものは、府中市は基本的に導入しています。ただ、5教科は概ね商品化されているのですけれども、一部の教科でまだデジタル教科書がない状況もありますので、それらについてはデジタル教科書ではないのですが、デジタルの教材として使えるものを用意しながら学校で使っているという状況です。

そして、子どものデジタル教科書、こちらは学習者用のデジタル教科書というのですけれども、教科書はそもそも国の予算で、国が用意して無償で配る仕組みになっておりますが、今、日本中の各市で、1教科ないし2教科の科目をデジタル教科書で使えるようにテストをしているところです。府中市においては、小学校も中学校も、英語と算数、数学についてデジタル教科書が使えるようになっておりますので、学校での利用も1学期からまさに始まったばかりですが、この活用が今後深まっていくと考えております。子ども用のデジタル教科書はクラウドベースになっていきますので、ご家庭でも持ち帰った際にはすぐ使えるような形で設定も終わっており、タブレットを起動するだけで使えるという整備ができていく状態となっております。

[教育長]

少しだけ補足させていただきます。恐らく、保護者の方々も今の説明は正直言って、日頃から授業参観等の機会があれば、あのことを言っている、この状況だということを実感されると思うのですが、コロナの影響で授業参観の場面がほとんどないので、どうなっているのだろうという状況だと思うのです。

昨年度はハード面の整備が主でした。今年度はソフト面でいわゆるどう使っていくのか、授業でどうやって使っていくのが焦点となっ

ている年になっています。例えば、先ほどの教員向けのデジタル教科書は、全ての教科は基本的に発行されているものは全部導入するという形ですけれども、それについては先ほど市長からお話がありました、教室の中で大きい画面を使って子どもたちに指導をしているという状況です。今後は一人1台のタブレットに子ども用のデジタル教科書が入っていて、ちょうどシンクロしながらというのが今後のあるべき授業の姿なのかなというところですが、それはまだまだ途中ですということ为先ほど説明した状況です。

先生方においては、研修しないとなかなかこれらを使いこなすことは難しいです。昨年度から相当研修をして、すごく取り組んでくれていたと思っています。教科によっては使い方に少し温度差があるかもしれませんが、基本的には学習ツールとして一人1台タブレット等を完璧に使いこなしながら、子どもたちの学習を充実させていきたいと思っております。

一人1台タブレットの家庭への持ち帰りは、今週の初めから準備ができた学校からスタートしています。学校には遅くとも来週中には、夏休みの前には、一人1台タブレットを持ち帰り、取り組んでくださいというお願いをしていますので、学校によって若干差は出てきているかもしれませんが、そのような取組のところまで来ております。

[八小 P T A]

I C T の活用について非常に参考になりました。ありがとうございます。あとは父兄の立場からとしては、重すぎる紙の教科書、ランドセル問題というところが、恐らくここにいる P T A の皆さんもそうなのですから、1学期始まって新入生が重たいランドセルと教科書を持ってフラフラ歩いてしまうところの1つの解決として、デジタル教材がそこを変えていくことができるのではないかなと思って期待しておりますので、ぜひともご推進よろしく願いいたします。

[九中 P T A]

新型コロナウイルスについて、冒頭、市長からコロナを乗り越えること、また教育や安全が第一であるというお話がありました。まさにそのとおりだと考えております。ただ、コロナが始まった当初、未知

のウイルス、治療法も分からない。死亡率は5%に昇る。非常に高い死亡率。しかし、裏を返してみると、当時であっても当時の厚生労働省が亡くなった方全てを死亡後に検査して、それでコロナが発見されてもコロナ死亡として報告しなさいというところが出てきています。現状では昨日の数字を見たのですけれども、東京都でも死亡がゼロ。その報告のものに関しては、変わったというのを私聞いてないので、すけれども、8,500人新規感染、死亡ゼロ。こういう状況なので、すね。

やはり最初から言われていたのは、高齢者には猛威を振るう。そういったところもある中で、今これだけ死亡率や重症化率が下がってきている中で、学校におけるコロナの危険性、今どのようにご認識されているのかをお教えいただければと思います。

[市長]

新型コロナウイルスの危険性について、専門的な知識があるわけではないので、それからそれぞれの皆さんのお考えの度合いが違うとは思いますが、ただ、国において5類、2類、よく聞かれると思いますが、インフルエンザと同等なのか、あるいはそうではない特別な扱いをしているものなのかという、現段階でいまだ特別な扱いをしています。したがって、その範囲の中で我々は考えていかなければならないと思っております。

ただ一方で、色々なことが分かってきています。したがって治療法も含めて、重症化しないための治療はどうしたらいいのか。そのようなことも分かってきていますので、今は色々な意味で制限をかけることはほとんどなくなってきています。ただし、やはり感染した、1人感染、濃厚接触者、2人感染、じゃあ、学級は閉鎖しましょう。こういった流れについては数か月前と同じ扱いにせざるを得ないところであります。

色々な活動がありますので、このときはこうやって、あのときはあんなればということ具体的には申しあげませんが、しかし、この暑さの中でマスクを取る機会というのも、やっぱり勇気を持ってすることも大事だと思っておりますし、子どもたちも我々も含めて、手を洗ったり、うがいをしたり、こういった基本的な生活習慣というの

を、コロナをばかにしないでしっかりやっていくべきなのではないかなど。これは恐らくまだまだ続くと思います。

ちょっと振り返っていただくと、去年は先ほど申しあげましたデルタ株というので8月がピークでした。8月の中旬から下旬にかけては救急車を呼んでも、救急車は来るのですが、病院を探しても探しても病院に行けない。救急隊の交代をどんどん行って、でも救急車が動かないまま病院を探している。そのような状況が8月の中旬から下旬にかけてありましたので、味の素スタジアムの一部に緊急で東京都にベッドを60床ぐらいつくっていただいて、そこで患者さんを運んで、抗体カクテル、抗体を2種類、カクテル療法で点滴入れて、次の日には軽症のまま施設に送るということもやってきました。その後の半年後の、今年の2月オミクロン株がピークになって、ようやく収まったと思ったらまた少しずつ増えてきています。

ですので、危険性というか、そのウイルスの威力については決して侮ってはいけないと思いますが、徐々に色々なことが分かってきているので、色々な活動も制限を少なくすることはできるだろうと思っています。

[九中 P T A]

学校の対応としては、かなりできる範囲のギリギリのところまで行っていていただいていると思っています。ただ、冒頭、教育長からもお話あった今、報道で、8月には5万人と言っている、そのところだけに踊らされるというか、飲み込まれてしまうと、子どもたちはすごく可愛そうだなと。先ほど校長先生からもお話あった、子どもが自分の顔を出せないというのが、果たして思春期の発達にとって良いことなのかどうかということも含めると、やはり少し必要な対策はしながら、雰囲気というのは醸成していくのが大事なかなと思っていますので、質問させていただきました。

[新町小 P T A]

特別支援学級についてお伺いします。私が P T A 会長に就任してから数年間の間に、平日に色々な P T A の会議や、本部の集まりで学校に行く機会があるのですけれども、コロナ禍を経て、再開後に感じる

ことは、今、教室で授業を受けられない生徒が増えてきているなどということが印象にありまして、PTA室に行く間にも何人もの児童に、階段のところにいる子だったり、会議室にいる子だったり、あと保健室にいる子だったり、結構そのような子を見る機会がとても増えていて、すごく気になっていたのですけれども、たまたま本部役員で特別支援学級に通わせている保護者の方がいましたので、その辺りのことについて聞いたのですが、今、発達障害とかの種類も細分化されてきていて、色々な症状にあった学級がなかなかないという声もよく聞くので、府中市としてそのようなことを今後拡充していくような準備等、ビジョンはおありなのかどうかお聞きしたいです。

[市長]

子どもによって発達の状況が違うというのは、これは当然のことです。その中で特別支援が必要なお子さんに対する特別支援学級が設けられていて、どの子も学ぶ機会を失うことがないように、公平な目線で、そして日々の活動が充実していくようにしていることは、全ての学校の校長先生はそのように考えていると思います。

しかしながら、近年は特に今お話のあった発達障害を含めて、色々なお子さんがいらっしゃるということ把握しておりまして、私も全ての子どもたちが学ぶ機会を受けられるということ、それからその子なりに時間かけて成長していく。それはきっと子どもたちにとっても周りの人たちにとっても一番の望むところだろうと思っております、これまでなかなかできなかったのですが、児童発達支援センターという施設を矢崎町の元矢崎幼稚園の跡地に今、建てることにしています。

先月、6月に行われました本年第2回の定例議会で、建築費、その建築費の中の電気、設備、それらの議案を全て議決を頂いたので、令和6年の4月にオープンするように準備をしています。それまで何もないかというところではなくて、心身障害者センターの「あゆの子」というところで、そちらを1つの拠点に、それから東府中駅の近くにも分室を設けて相談体制を取っていますので、そちらと各学校が連携をするような形をとっていますけれども、それがさらに充実できると思っております。

[二中 P T A]

教育にかかるものを全て無料にしたいというのが、私がずっと思っていることでして、子どもが3人いるのですけれども、この間、教材費の支払いが公費2,000円台で、自費2万台という形で3人分来まして、大変だとすごく思っていたのですね。恐らく皆さんもそう思っているのではないかと考えていまして、子どものためにお金を使うのは府中市のためというか、みんなのためだと思っていたのです。

前に公費が上がった記憶がありまして、周りの市を鑑みてというような内容の手紙が来た気がするのですね。周りの市が府中市ほど教育費に公費を出していないので、府中市の公費を上げましたといった趣旨のお手紙が来たことがあったと思うので、それも少し不審に思ってしまった点があります。

ですので、このことについて今後どうしていくか、話が伺えたらと思っております。

[市長]

教材について公費、それから保護者の皆さんの負担が両方あります。そして、以前ほかの市に比べて保護者の皆さんの負担というのが府中市は極めて少なかった時がありました。10年近く前に、この場で副教材があまりにもしっかりと充実されていないので、少し保護者負担を設けても、それぞれの先生がカリキュラムをしっかりと達成するための教材として用意ができるようにしたらどうかというご意見を頂いて、財政当局とも色々な市とのバランスを考えて、今でもほかの市に比べると公費負担が多く、保護者の皆さんの負担は少ないと思います。少ないのですけれども、それぞれの学校の考え方によって選ばれる教材が違うので、そのことについては保護者の皆さんにご負担いただいて、皆さんに負担をしていただいた以上はしっかりとした成果を上げるということにつながっていると思います。

どうしても、保護者の皆さんのフォローがあることで学習の力が上がっていくという考え方もあると思っておりますので、皆さんのご負担をいただくことと、学校からの公費と両方合わせているというのが

実情であります。これは決して府中市の小学校、中学校がほかの市よりも高くなったとか、そういうことではないということです。

[二中 P T A]

基本的には教育の無償、色々と教育にはお金を本当に入れていただきたいと思うところなので、今の答えで納得できるかといいますと、私としてはもっと頑張ってもらいたいと思います。

もう1つ、先ほどクーラー、猛暑対策の話を市長が言われていて、コロナだからといって窓を開けてクーラーをかけることなどはしないと話されていたと思うのですが、恐らくきっちり学校のルールとして、そうしてくださいと言わないと、窓を開けてクーラーをかけてしまうこともあると思いますので、ここではそうしている、あそこではそうしていないみたいなことがないように、きっちり一律で言っただけならなと思います。子どもたちの登下校のマスクも、親が言っても外してくれないので、それもちょっと本人のことなので何とも言えないのですが、本当に熱中症になってしまうのだよということを強く言って、子どもたちに外してもらうように指導をお願いしたいと思います。

[市長]

教材費については、先ほどの説明で十分ではないかもしれませんが、ぜひご負担を頂いた分、子どもたちは学習がしっかりできているかどうか、それをしっかり確認していただいて、学校とご家庭との連携で学習の進捗をしっかりと見守っていきたいし、学力をしっかりと達成していきたいと思っております。そういった考えから保護者の皆さんにもご負担を少しいただくということです。

市全体としては、やはり子育てをしているご家庭の支援はすごく大事なことだと思っております。特に今、物価高でそれぞれのご家庭が色々と工面を苦労しながら、日々の生活を送っていらっしゃると思います。市として国や都からの補助とか交付もありますけれども、市としてもお子様を育てていらっしゃるご家庭をどう支援したらいいかということ、今日も午前中に色々と検討して、9月の議会にかける補正予算を組むなどしてありまして、そのようなところで広く子育て

支援を進めていくということでございまして、決して儉約のため保護者の皆さんに負担をしていただくことを前提にしているわけではなくて、負担をしていただいて一緒に学習を支援するという目を持っていただきたいなということが私の思いであります。

それからエアコン、クーラーについては、もしかしたら、もう開けなければいけないと先生も思っていたかもしれない。開けなければいけないけれども暑いから、もう思い切りつけなければいけない。恐らくかなり低い室温設定で、思いっきり窓を開けてやっていたと思うのです。市職員などが学校に訪問した際、屋外と全く同じ温度だったと言っています。ですから暑いのにエアコンをつけて、バタバタやりながらという状態でした。

そこで教育長にお願いをして、学校施設課長名で各学校長に、空調使用時における教室内の換気について、一斉に指示を出しました。7月1日付です。窓や扉は完全に閉めるというところにアンダーライン。常時換気の必要はない。30分に1回程度の換気で、時間は100秒程度。さらに各窓、左右20センチ程度の開放かつ、廊下前後の扉40センチ程度開放するというのが換気時のルールで言っていますので、きちんと徹底されると思います。

マスクについては、私も記者会見などで、市長が率先して取ったらどうかと言われたりもしますので、屋外でのウォーキングやイベントでは取って、皆さんに不快な思いをさせないように距離を取りながらとは思っていますが、やっぱり色々な見方をする方がいるので、マスクをしなければと思うときも実際はあります。子どもにしてみるとさらにそれは、みんなからいじめられないかなと思ったり、あるいはマスクしていることに慣れてしまっただけで、取るという勇気がなかなか持てなかつたりするのだと思います。現場の先生たちも同じ悩みを持ってらっしゃると思いますので、取る方向でみんなで協力して理解を求めていきたいと思っています。

(3) フリートーク

[三中PTA]

子どもたちが充実した教育、またそのような学校生活を送れるためには、私たち保護者、それと教員、また地域の方たちが連携をして交

流していく。市長から冒頭のご挨拶で、「きずなを紡ぐ」という非常に温かい表現をいただきましたが、まさにきずなを紡ぐという意味なのですけれども、今年、周年を迎える学校、または例年行事で何か交流会を開かなければいけない学校というのはたくさんあると思うのですが、その中で大事なのは会食、皆さん集まって食事をとると、今日も市長と例年だとこの後、会食があったのですけれども、今日はないということで非常に残念に思っているのです。

都では会食について、コロナの感染者数が増えています、特に制限はない状態です。今後もどうなるか分かりません。その中で市として現在、会食しなければいけないイベントを企画する側としての質問なのですけれども、三中では会食となると、秋に観月会という会がございまして、市職員の方、また地域の方、教員の方を招いて、70、80名の方に来ていただいて楽しんでいただくという会があるのです。そのような会を今後企画していく側としてどうしたらいいのだろうか非常に思っている学校は多いと思っており、現在それをするかしないかというのは置いておくとして、今後どうなるか分からない、感染者数が増えるかどうか分からない状況の中で、市として、そういったものを出席されるのか、また開くことを、去年はもう何も考えず中止でよかったと思うのですけれども、今年は会食以外のものも色々活動し始めているので、市の見解、今後の見通しを参考までに教えていただけると準備しやすいのですが、いかがでしょうか。

[市長]

悩ましいところでございます。コロナ前に戻りたいという気持ちは当然あります。しかしながら無防備でいいかということ、それはやはりそうではないだろうと。今、感染者少し増えてきているのも、恐らく制限がなくなったことによって人の動きが非常に多くなって、当然会食やその他、近い距離で色々な交流をすることが増えてきたことが要因の中にあるのだろうと思います。

今、市として何らかの制限をかけているかということ、それは特にかけていませんので、感染対策を講じて会食を行う分には、このとおりの言葉を今お伝えして進めて、ご検討いただければなと思っております。ただ、もうすぐ行いますそれぞれの地域にあります文化センター、

文化センター祭りは夜になるとお酒が出回って、そこで色々なところで密ができて、感染のリスクが高いのではないかとことを考えまして、文化センター祭りをを行うのですが、日中、特に子どもたちを中心とするものについては今までと同じように色々なことを企画していますが、夜6時を過ぎて7時8時になることはないように、少し早めに引き上げましょうということになっています。

これで市のほうでは計画を立てたのですが、その後、色々な地域で自治会とかで盆踊りやっていることが多いのですが、夜は飲食やめましょうねというメッセージになってしまったようで、地域の盆踊りはほとんど開かれないみたいですね。ただ、もう少し違うイベントを紹介すると、8月の初旬に行われてきました商工祭り、これは土曜日、日曜日の2日間開催で行うそうです。ただ、夜は早く終わるとのことなので、一定のルールに従って、みんなが協力し合って会食する分には良いかと思えます。ただ、不特定多数の人が入れ替わり立ち替わり、密を作る状況というのはやっぱり皆さんの理解が得られないのではないかなと思っています

[小柳小 P T A]

6月3日付で保護者の有志の方たちで府中市に、先ほどの話に戻りますが、マスク着用についての陳情書を提出しているのですが、その陳情書について先日6月23日に本会議で取り上げられ、その陳情書が不採択に終わったと聞いていまして、市長がその経緯についてご存じでしたら、不採択になった理由をお伺いしたいのです。その陳情書の内容というのが、親や先生がマスクを外しましょう、できるだけ外しましょうと呼びかけても外せない、さらに、外している子がいるとその子に対して付けたほうがいいよと言ってしまおう子がどうしても、それはその子の自己判断なので、それはそれでその子なりの考えがあったりというのは尊重すべきだと思えるのですが、やっぱりそのような世の中の流れがどうしても刷り込まれて今まで来てしまったり、悪気なく言うてしまうことが現状として起こっているのです。給食の黙食などについてそうですけれども、ほかの市とかでは、例えば所沢市では、市から大々的に、各家庭にその判断は任せる。やっぱり外したくない子もいれば、外したい子もいることを、それぞれの意見を

尊重すべきだということで、ホームページに掲載しています。各家庭にというよりも、できるだけそのようなことは、学校だけに委ねるのではなくて、私個人としては市から、先ほど市長もおっしゃっていたように、ご自身が外ではできるだけ外すことを自身で行っているとおっしゃっていたのを聞いて、すばらしいなと思ったのですが、やはり大人が自主的にその場をわきまえて、マナーやモラルを持って対応することが大事だと思うのです。ただ、不採択になった理由というのが特に明確には告げられなかったと聞いていますので、その経緯を、もしご存じでしたらお伺いしたいと思います。

[市長]

府中市議会に陳情が出されまして、現在26人の議員さんがいらっしゃって、26人の議員さんの中でそれを採択するか、採択しないかという、採決をしたときに不採択に賛成する方がほとんどであったということなので、この陳情については、採択されなかったということです。

ただ、議論の経過を私も見ていまして、その中では、やはり今おっしゃったように、マスクを絶対につけていなければいけないというのはあまりにも子どもにとって酷でありますし、またできるだけ取ってあげたいという気持ちは、私もそう思いましたし、各議員さんもそう思ったのではないかなと思います。議員の皆さんそれぞれのお考えで採択しないという結論を出した方が多かったというのが事実でありますけれども、私としては陳情の趣旨については、市長として受け止めて、そして今後、教育委員会から、統一の指示が出せるか分かりませんが、できるだけマスクを取るような環境を子どもたちの意思によって選択できるようにしたいなとは思っています。教育長名で保護者の皆さんと学校長に指示が、文書が出ていますので、説明を代わります。

[教育長]

既にホームページにもマスク着用の考え方や、基本的な考え方について、また、特に熱中症を予防・防止するために夏季における児童生

徒のマスクの着用については、既に学校を通じて保護者の皆様に通知という形で出させていただいていると思っています。

特に、今は熱中症とマスクの関係が一番心配なところなのですが、いわゆる学校を通じて子どもたちに指導してほしいと言っていることは、登下校中は外すということ。それと、例えば体育の授業とかそういういったときには外しましょうということを指導していただいています。

ただ、先生たちはちゃんと言ってくれているのですが、子どもたちはそれぞれの個人の感覚でどうしても外さないというお子さんがいるのも事実ですが、学校の基本姿勢は今、熱中症防止のために、登下校と体育の時間は外しましょうという指導をしていただいております。

通知は6月14日に出していますので、そのような指導をしているということをご理解いただきたいなと思っています。

また、日常的なものについては従来から、必ずつけるということではなく、距離が十分取れる場合、この夏季になってからではなく、例えば、登下校のときも十分距離が取れるときには外して、苦しいときなんかは無理せず外していいですよというのも従来からずっと言ってきたところなんです。それも通知文として保護者の皆様方にもお出しして、ご理解をいただいているところだなと思っていました。

ですから、その部分は今後も方針は変わりませんので、徹底していきたい。また、どうしても外せ、外せと強制というのが、それぞれご高齢のご家族がいて、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒にいて、やっぱりおじいちゃん、おばあちゃん、家族を守らなければいけないと、子どもたちが外さないときもあるかもしれませんので、なぜ外さないのだからってことは、それは今度は子どもに対して精神的に負担にもなりますので、その辺りはきちっとこういった場面は外していいのだよと言いながら、それでも僕はつけるのですと言ったら、それ以上は、あまりぐいぐいという形ではないということをご理解いただければなと思います。

[小柳小 P T A]

マスク関連の流れで歌について、学校の音楽の指導中の歌や、楽器の演奏の指導についてですが、学校に、例えばブラスバンドが活動できていないので、それを復活させたいという内容から、復活させるためには練習しなければいけないというときに、今の市の規定では校舎内で練習ができないから実質難しいというお話を聞いたりするので

すね。
そうすると学校によって練習できているところとできてないところが、それぞれ私が聞いている限りではあるのですけれども、その規定というのがよく分からなくて、なぜ学校によって違うのかというのが疑問に思っているのも、もし何か市からこのように一律としている、発表していることがあればお伺いしたいなと思います。

[市長]

教育長から見せてもらっているのですけれども、府中市立学校感染症予防の手引ということで、昨年9月に出されている手引がございます。そちらに、歌唱の活動や管楽器、リコーダー等を用いる活動ということで、部屋の換気を行って、窓や壁に向かって、1、2メートル程度間隔を空けた横一列の体型や半円の体型で実施するなどの工夫を行うという指示が出ております。したがって、練習をしないという指示にはなっていないので、恐らくほとんどの学校はこの形で工夫をして行っていると思います。

ご心配のとおり、私もそんなに音楽が得意だったわけではないのですけれども、やはり子どもたちが歌を歌うということ、これ自然のことだと思うのですね、子どもにとっては。自然に自分の心が歌になっているのは。それから楽器に特に興味や関心があったり、自分が色々な技術を習得したいという人たち、子どもたちにとっては、本当にピアノ1つとってもなかなか練習ができなかったり、それからリコーダーもそうですね。さらに管楽器、木管楽器となってくると、どんどん色々な制約があるように感じてしまいますけれども、できる方法もこのように指示ができていますので、私のほうとしても、ぜひこういった音楽の教育活動は積極的に行っていただきたいと思いますので、また教育長と相談しながら各学校、バランスが悪くならないようにしたいと思います。

[二小 P T A]

何年か前になるのですけれども、学校の芝生化ということで、第二小学校もモデルとして芝生のある校庭になっており、モデル校として始まってはいるのですが、今後、全部の学校にそのように進めていくのでしょうか。または、芝の業者さんが入って芝を育てていただくのですけれども、業者さんによってやり方がやはり変わってくるというのと、業者さん任せになってしまっていたりという、やはり芝生だけに関しても色々な問題があるので、この辺りをどのようにお考えかというのをお聞きしたいことが1つ。

あと、今、老朽化ということで色々と校舎が新しくなったりしてきているのですけれども、学校の中にもやはり体育館が古くなってきている学校とかもあるので、どのような順番になっていくのか。お答えができる範囲でよいので、よろしくをお願いします。

[市長]

まず、校庭の芝生化については、以前もこの懇談会でご質問をいただきまして、二小、一小を始めとして、幾つかの小学校で校庭の芝生化がされている学校があります。しかしながら、これが非常に保護者の方にもご負担をかけたり、あるいは何と云っても芝生の養生のために子どもが活動できないという制約がかけられてしまうことが、非常に課題となっています。

したがって、これらの問題を解決することが現段階ではできないと思っておりますので、その他の学校に校庭の芝生化を進めていく考えは、今はありません。モデル校となっただいて広げようと思ったのですが、やはりなかなか芝生は難しい。子どもたちの活動を制限するという事は非常に難しいので、現在取り組んでいる幾つかの学校は、これはこれでしっかりと維持をしながら、子どもたちにとってよい学習環境として考えておりますが、これがない学校も逆に芝生にしないことによって、子どもたちの学び、あるいは活動の場が確保されると考えておりますので、現在のところ、広げる予定はありません。

それから、学校の改築については、教育部でグループ分けをしまして、それをしっかりと捉えた上で、老朽化しているものについて改築

の前に改修をする学校など選定をしておりますので、皆さんにとって不公平感がないように進めていこうと思っています。

ただ、いずれの学校も50年近く経っているので、やはりどうしても否めない部分がありますので、少し後追いになる部分もあるかもしれませんが、子どもたちにとって影響がないようにしたいと思っています。何か不都合がありましたら、この学校のあそこがどうにもならないということをどんどん言っていただいて、それに全て対応はできないかもしれませんが、できる限り対応していきたいと思えます

[八中 P T A]

先ほどのエアコンのことについて、学校で窓を閉めていてもエアコンが全然効かず、先週のすごく暑かったときには30度以上になってしまう教室が多くて、40人ぐらいの子どもたちが、教室もギュウギュウで、そんな中で授業を受けていて、熱中症の話も出ていたのですが、教室内で熱中症になりそうぐらいの暑さの中で、子どもたちは頑張っています。

フィルターの掃除をしても全然直らない。色々な人に聞いた話によると、エアコンは暖房をメインに考えられたものが付けられていて、教室自体をすごく冷やすことを考えて付けられていないものだというのを聞きました。そのため、変えるしか方法はないということ言われて、来年の夏もきっと暑いだろうし、これからどんどん暑くなっていくだろうなと思うのですけれども、市として学校のエアコンを新しいものに変えることは考えられているのでしょうか。

[市長]

ご指摘いただきましたので、その実態をすぐに職員が確認して、必要に応じて、どれぐらいの年数がたっているか分かりませんが、場合によっては変えるとか、そういうこともしなければいけないのではないかなと思っています。

[学校施設課長]

今のお話につきましては、6月29日に既にお受けしております、現在、メーカーに空調の具合を見ていただいているところでございます。エアコンの効きが悪いということを受けておりますので、緊急的に職員のほうが現場に入って、なるべく早く対応していきたいと考えております。